

変わりゆく地域社会。私たちと子孫のために郷土の未来像を考えよう

南三陸町の小さな漁村・波伝谷の震災前後 12 年を見つめ続けたドキュメンタリー映画
土地に根ざし、当たり前の日常を生きることの貴さを映し出す

『波伝谷に生きる人びと』…ぴあフィルムフェスティバル PFF アワード 2014 日本映画ペンクラブ賞受賞
『願いと揺らぎ』…山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 インターナショナルコンペティション入選



ドキュメンタリー映画上映

波伝谷に生きる人びと 春祈禱 願いと揺らぎ

〜南三陸町波伝谷の行事〜



【日程】
2019
6月1日(土)
開場 9:30
開幕 10:00

我妻和樹監督映画上映会

蔵王町郷土芸能セミナー

【会場】
(蔵王町ふるさと文化会館)
ございんホール
蔵王町円田字西浦 5
☎0224-33-2018

タイムテーブル

- 9:30～10:00 開場
- 10:00～10:05 開幕・行事説明
- 10:05～12:25 ①映画上映 **波伝谷に生きる人びと**
- 12:25～13:35 昼食休憩 昼食は各自で用意下さい
- 13:35～14:35 ②映画上映 **春祈禱～南三陸町波伝谷の行事～**
- 14:35～15:15 ③トークセッション 地域の未来と郷土芸能の保存について
パネリスト：我妻和樹氏・我妻勇喜氏・谷津智里氏
- 15:15～15:25 休憩
- 15:25～17:57 ④映画上映 **願いと揺らぎ**
- 17:57～18:05 我妻監督ご挨拶・閉幕行事

【裏面】上映作品紹介

参加無料 ※整理券が必要となります
整理券取扱：ございんホール / 各地区公民館

・各映画の上映時、我妻監督に解説を行っていただきます ・全プログラムにご参加いただければ幸いです、部分的なご参加も歓迎します

【主催】蔵王町教育委員会 【製作・配給】ピースストーリー・プロダクツ 【監督 / 撮影 / 編集】我妻和樹

『人びとが当たり前の日常を送れる地域』の大切さを考える ～開催にあたって～

蔵王町には神楽や春駒など9つの郷土芸能が伝えられています。これらの郷土芸能は、先人たちが思いを込めて続けてきた地域の宝です。変化の激しい現代、郷土芸能を守り伝えるためには、人びとが安定して日常を営める地域社会を保ち続けることが不可欠です。白石市出身の若き映画監督・我妻和樹氏が作り上げた南三陸町波伝谷の伝統行事『お獅子さま』をモチーフとした3本のドキュメンタリー映画には、人びとが当たり前の日常を営めることの大切さと、東日本大震災による地域コミュニティ崩壊の中で、郷土芸能が人びとの心をひとつにするほどの象徴性・重要性を秘めていることが描かれています。これら3作品の上映と我妻監督を交えたトークセッションによって、郷土芸能の保存を軸とした地域社会の未来像について考えます。

プログラム & 上映作品紹介

① 波伝谷に生きる人びと

上映時間 10:05～12:25



東日本大震災の津波により被災し、壊滅的な被害を被った南三陸町の小さな漁村『波伝谷』の、震災までの3年間の日常を追った作品。被災前の美しい風景やそこに溢れていた光、流れていた時間とともに、土地に根差して生きる人びとの日々の営みが描かれる。第36回びあフィルム・フェスティバル『PFF アワード2014』日本映画ペンクラブ賞受賞作品。(2014年/135分)

② 春祈禱～南三陸町波伝谷の行事～

上映時間 13:35～14:35



南三陸町の無形民俗文化財に指定され、『お獅子さま (オススサマ)』の愛称で親しまれている波伝谷の春祈禱の記録映像。2005年、2006年に撮影した映像をもとに、当時学生だった我妻監督が解説を加えて初めて編集した作品。変化の激しい現代社会にあって、それでもなお伝統行事と郷土芸能を守り続ける地域の人びとの姿が鮮明に映し出される。(2007年/53分)

③ トークセッション 14:35～15:15

【テーマ】 地域の未来と郷土芸能の保存について

我妻和樹氏 映画監督・『波伝谷に生きる人びと』『春祈禱』『願いと揺らぎ』監督/撮影/編集

【パネリスト】 我妻勇喜氏 蔵王町指定無形民俗文化財『宮刈田嶺神社神楽』五代目代表

谷津智里氏 編集者・ライター・『波伝谷に生きる人びと』2014宮城県沿岸部縦断上映会実行委員

④ 願いと揺らぎ

上映時間 15:25～17:57



震災から1年後、『お獅子さま』を復活させようと立ち上がるも、集落の高台移転や漁業の共同化など様々な課題に直面し、足並みが揃わない波伝谷の人びと。取り戻したいものは同じはずなのに、動くほどにすれ違っていく人びとの想い。山形国際ドキュメンタリー映画祭2017インターナショナルコンペティションにて1146作品中15本に選ばれ、世界の注目を浴びた我妻監督渾身の一作。(2017年/147分)

- ・各映画の上映時、我妻監督に解説を行っていただきます(上映前5分ほど。上記の上映時間は解説時間を含みます)
- ・すべてのプログラムにご参加いただければ幸いです。お客様のご都合により部分的なご参加も歓迎いたします
- ・プログラム①と②の間に70分の昼食休憩を設けます。昼食は各自で用意下さい(昼食会場のみ用意いたします)

我妻和樹監督略歴

1985年白石市出身。東北学院大学文学部史学科卒業。民俗学専攻。学生時代に参加した民俗調査で南三陸町波伝谷の伝統行事『お獅子さま』とそこに暮らす人びとに魅了され、継続的な調査取材を通じて深い交流を育む。卒業後は個人で波伝谷のドキュメンタリー映画製作を開始。東日本大震災には自身も波伝谷で被災。震災後、波伝谷の人びととの向き合い方に悩み取材を中断するも、後に再開。2014年『波伝谷に生きる人びと』発表。同年夏、宮城県沿岸部縦断上映会(11会場)を実施。2017年には『願いと揺らぎ』を発表し、震災の前後12年にわたる波伝谷の貴重な映像記録を2つの作品として昇華させた。2015年度以降は『みやぎシネマラクトル』を立ち上げ、地元宮城の映像文化発展にも取り組んでいる。

